

## 地球観測戦略転換：小型地球観測衛星シリーズ化 Earth Observation Strategy by Small Satellites

児玉 哲哉<sup>1\*</sup>, 鈴木 睦<sup>2</sup>, 小原 隆博<sup>4</sup>, 小山 孝一郎<sup>4</sup>

KODAMA, Tetsuya<sup>1\*</sup>, SUZUKI, Makoto<sup>2</sup>, OBARA, Takahiro<sup>4</sup>, OYAMA, Koichiro<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 宇宙航空研究開発機構, <sup>2</sup> 宇宙航空研究開発機構, <sup>3</sup> 東北大理, <sup>4</sup> 台湾國立成功大学

<sup>1</sup>EORC/JAXA, <sup>2</sup>ISAS/JAXA, <sup>3</sup>Tohoku Univ., <sup>4</sup>NCKU

旧宇宙開発事業団の諮問委員会であった地球環境観測委員会の消失後、ようやく JAXA に地球圏総合診断委員会が設置されるに至った。しかしながら ADEOS、ADEOS-II の連続喪失以降、ようやく GCOM-W1 は本年打上げ、ALOS の観測は中断という状況にある。

一方、宇宙科学分野を除けば、経済産業省の主導による ASNARO 計画のみが実行されているが、小型衛星で実現可能なミッション提案を常に一定数確保し、H-IIA で打ち上げる衛星が枯渇しないように体制を整えておくことは、地球観測技術の継承・発展という点のみならず、常に一定数の衛星技術者（地球観測研究者）を維持しておくという点で極めて重要である。

地球観測ミッションの立案は、宇宙理学委員会のようなピア・レビュー（同業者間の相互評価）により互いにミッションを評価・改善・精選するプロセスを導入することによって、JAXA の理念である世界一流の研究開発の実現に貢献することが可能となる。

キーワード: 小型衛星, 小型科学衛星バス, ASNARO, SDS, 超小型衛星, 同業者評価

Keywords: Small Satellite, Small Scientific Satellite Bus, ASNARO, SDS, Microsatellite, Peer Review